

記憶ルール・プロンプト集

AI部下を毎回新人に戻さないための実践ワークブック



この特典の約束

この特典は、AI部下を「毎回説明し直す相手」から「前回の続きから動ける相手」に変えるための記憶設計ワークブックです。

目的は、会話ログを大量に保存することではありません。

あなたの仕事を前に進めるために、AI部下が次回も参照できる記憶を作ることです。

この特典を使うと、次のものが揃います。

- AI部下用の記憶フォルダー設計
- 最初に作る5つの記憶ファイル
- 残す記憶 / 残さない記憶の判断基準
- AI部下に記憶を読ませる起動プロンプト
- 作業後に記憶を保存するプロンプト
- 出力をレビューして改善記憶に変える採点表
- AI部下の運用ログサンプル
- 7日間の記憶育成メニュー

人間の作業99%削減を目指すなら、最初に削るべきなのは「毎回同じ説明をする時間」です。

もちろん、99%は保証ではありません。

でも、毎回の説明、確認、やり直し、引き継ぎを記憶に移せると、人間の仕事はかなり減ります。

AIに丸投げするのではなく、AIが迷わない前提を残す。

それが、この特典の役割です。

0. 最初に決めること

記憶フォルダーを作る前に、次の5つだけ決めてください。

1. このAI部下に毎回覚えてほしい目的:
2. このAI部下に覚えてほしい判断基準:
3. このAI部下に覚えてほしい自分の好み:
4. 二度と繰り返したくない失敗:
5. 人間に必ず戻してほしい判断:

例:

1. このAI部下に毎回覚えてほしい目的：
桐崎和也の個人発信を、実録として読者に届け、Agent Memoriesの先行登録につなげる。
2. このAI部下に覚えてほしい判断基準：
公式説明ではなく、現場で試してわかったこととして書く。
3. このAI部下に覚えてほしい自分の好み：
きれいにまとめすぎない。読者が真似できるテンプレを残す。
4. 二度と繰り返したくない失敗：
投稿先アカウントの混同。特典と開発メモの混同。抽象論だけで終わること。
5. 人間に必ず戻してほしい判断：
公開、投稿、外部アカウント操作、価格、法務リスク、成果保証に見える表現。

ここが曖昧だと、記憶フォルダーを作っても使われません。

まずは、AI部下に何を覚えてほしいのかを決めます。

1. 記憶フォルダーを作る

最初のフォルダー構成は、これだけで十分です。

```
my-ai-subordinate/  
  north-star.md  
  manifest.md  
  role-card.md  
  memory/  
    decisions.md  
    preferences.md  
    failures.md  
    promises.md  
  prompts/  
    start-session.md  
    save-memory.md  
    review-output.md  
    handoff.md  
  logs/  
    2026-06-27.md
```

いきなり複雑なデータベースを作る必要はありません。

最初はMarkdownで十分です。

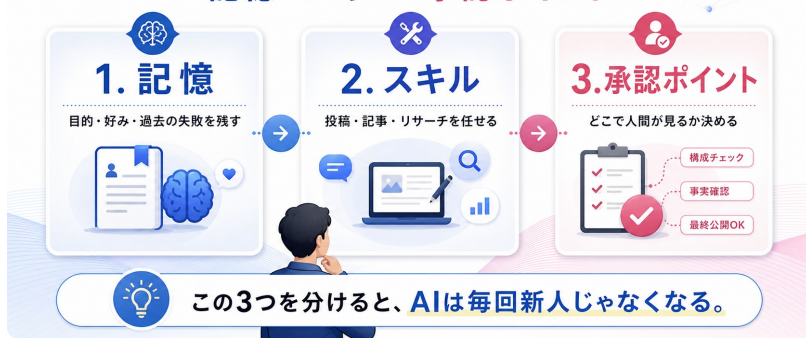
大事なのは、AIが毎回読める場所にあること。

人間も後から確認できること。

そして、次のAIへ引き継げることです。

最初に決める3つ

記憶・スキル・承認ポイント



最初に決める3つ: 記憶・スキル・承認ポイント

5分で作る最小版

時間がない人は、この5ファイルだけ作ってください。

```
my-ai-subordinate/  
north-star.md  
manifest.md  
role-card.md  
memory/decisions.md  
prompts/start-session.md
```

この5つがあれば、AI部下は「目的」「ルール」「役割」「決定事項」「起動時の読み込み順」を持てます。

2. north-star.md を作る

North Starは、AI部下が迷った時に戻る目的地です。

```
# North Star
```

```
## 最終目的
```

AI部下を使って、発信、制作、調査、実装、改善を回す。

人間の仕事を、作業そのものから確認・承認・改善指示へ寄せる。

```
## 6ヶ月後に目指す状態
```

- 人間が毎回同じ説明をしなくてよい
- AI部下が過去の決定と失敗を踏まえて提案できる
- 記事、投稿、特典、導線がシリーズとしてつながる
- 人間は最終判断と改善指示に集中できる

```
## 迷った時の判断基準
```

1. 読者にとって実際に使えるか
2. 過去の約束や決定と矛盾しないか
3. 次回のAI部下に引き継げる記憶が残るか

North StarがないAIは、その場の指示にだけ反応します。

North StarがあるAIは、「今やっている作業は、最終目的に近づくのか」を見られるようになります。

3. manifest.md を作る

Manifestは、AI部下の行動ルールです。

```
# Manifest

## 絶対に守ること

- 投稿先アカウントを混同しない
- 公開前に確認が必要なものを勝手に公開しない
- secret、Cookie、APIキー、パスワードを本文やログに書かない
- 成果保証に見える表現を使わない
- 公式連携のように見える表現を使わない

## 仕事の進め方

- まず目的を確認する
- 既存資料を読む
- 判断済みのことと未判断のことを分ける
- 作業後に次回へ残す記憶を整理する
- 迷ったら、実行前に人間へ戻す

## 出力の基準

- 読者が次に何をすればいいかわかる
- 抽象論だけで終わらない
- 実行できるテンプレがある
- 過去の失敗を繰り返していない
```

Manifestは、AIを縛るためだけのものではありません。

安心して任せる範囲を広げるための境界線です。

4. role-card.md を作る

Role Cardは、そのAI部下が何者かを定義するカードです。

第1弾で作った役割カードを、記憶フォルダーにも置きます。

```
# Role Card

## 名前

ミナ

## 役割

桐崎和也の発信を支える編集AI部下。

## 目的

AI部下、AIパートナー、Agent Memoriesの思想を整理する。

読者が保存して使いたくなる形に整える。

## 得意なこと

- note / X記事の構成改善
- 特典PDFの本文作成
- 読者が引っかかる一文の抽出
- 一般論を実体験ベースに戻す
- 次の記事につながる導線設計

## 任せないこと
```

- 最終投稿
- 外部アカウント操作
- 法務や価格に関わる断定
- 実績の誇張

判断基準

- 読者が「自分も使えそう」と思えるか
- 記憶、スキル、承認ポイントのどれかが入っているか
- エージェントメモリーズへの導線が押し売りに見えないか
- 次回のAI部下が読んでも続きから動けるか

出力形式

1. 結論
2. 弱い箇所
3. 改善案
4. そのまま使える修正文
5. 次アクション

AI部下を増やす時は、role-card.md を人数分作ります。

```
agents/editor.md
agents/researcher.md
agents/qc.md
agents/engineer.md
```

ただし、最初から増やす必要はありません。

まず1人目に記憶を持たせる。

そのあと、必要な役割だけ増やします。

5. memory/ に残すもの

記憶は、全部保存すればいいわけではありません。

残すのは、次回の判断を良くする情報です。

decisions.md

決定事項を残します。

```
# Decisions
```

```
## 2026-06-27
```

- 特典3は「記憶ルール・プロンプト集」を本命にする
- 後半に「AI部下運用ログサンプル」を入れる
- 価値は抽象論ではなく、フォルダー構成とプロンプト指示に置く
- 第1弾・第2弾と同じワークブック型で作る

preferences.md

好みを残します。

```
# Preferences
```

```
## 文章
```

- 公式説明ではなく、実録として書く
- きれいにまとめすぎない
- 読者がそのまま使えるテンプレを入れる

- 抽象論だけで終わらせない

特典

- 第1弾、第2弾と同じワークブック型にする
- 「この特典の約束」から始める
- テンプレ、サンプル、7日間メニューを入れる
- 読者が30分で手を動かせる構成にする

failures.md

失敗を残します。

Failures

2026-06-27 特典3 v1の型ズレ

起きたこと

第3弾特典を作る時に、第1弾・第2弾の完成形を十分に読み込まなかった。

その結果、説明書寄りの構成で作ってしまった。

原因

正本インデックスで特典テーマを確認した。

ただ、既存特典の作り方の型を基準として使えていなかった。

次回のルール

シリーズものを作る時は、必ず直前の完成物を読み、以下を揃える。

- タイトルの温度感
- 冒頭の約束
- 章立て
- テンプレの粒度
- サンプルの量
- 最後の案内の置き方
- PDFページ数と見たい目

promises.md

約束を残します。

Promises

読者への約束

- 登録後に特典を順番に案内する
- 特典は実際に使える形にする
- 通常特典と開発メモを混ぜない
- 記憶設計は抽象論で終わらせない

運用上の約束

- 外部公開前にQCする
- 公開前に投稿先と導線を確認する
- 状態が変わったら正本インデックスを更新する

6. 残さない記憶

記憶フォルダーに入れてはいけないものもあります。

入れないもの

- APIキー
- Cookie
- パスワード
- refresh token
- 個人情報
- 顧客情報
- 未公開の機密情報
- 一時的な雑談
- 期限切れの古い指示
- 誰の記憶か分からない情報

判断に迷ったら、次の基準で分けます。

- 次回の判断が良くなる -> 残す
- 次回の作業を危険にする -> 残さない
- 一時的な確認だけ -> logs/ に短く残す
- secretや個人情報 -> 記憶フォルダーに入れない

記憶は、AI部下を育てるためのものです。

秘密情報の保管場所ではありません。

7. AI部下を起動するプロンプト

記憶フォルダーを作ったら、次のプロンプトでAI部下を起動します。

あなたは、これから私のAI部下として働きます。

まず、次の順番で記憶ファイルを確認してください。

1. north-star.md
2. manifest.md
3. role-card.md
4. memory/decisions.md
5. memory/preferences.md
6. memory/failures.md
7. memory/promises.md

読み終わったら、次の形式で短く返してください。

【今回の目的に関する記憶】

【守るべきルール】

【過去の失敗で注意すること】

【人間に確認すべきこと】

その後、私の依頼に取りかかってください。

ポイントは、いきなり作業させないことです。

最初に記憶を読ませます。

AIは、読んだものを前提に動きます。

だから、最初に何を読ませるかが重要です。

8. 記憶を保存するプロンプト

作業が終わったら、次回に残す記憶を整理させます。

今回の作業から、次回以降に残すべき記憶を整理してください。

次の分類で出してください。

1. decisions.md に追記する決定事項
2. preferences.md に追記する好み・文体・判断傾向
3. failures.md に追記する失敗・再発防止
4. promises.md に追記する約束
5. logs/YYYY-MM-DD.md にだけ残せばよい一時メモ
6. 記憶に残してはいけない情報

各項目は、そのままMarkdownに貼れる形で出してください。

これを毎回やると、AI部下は「経験を積んでいる」状態に近づきます。

AI本体が勝手に学習するわけではありません。

でも、外部の記憶フォルダーに経験が積み上がることで、次回のAIがその経験を読めます。

9. 出力をレビューする採点表

AI部下を育てる時は、出力をそのまま使うより、レビューして記憶に戻す方が大事です。

【成果物】

【点数】

10点満点で：

【良かった点】

-
-
-

【ズレた点】

-
-
-

【次回から守ること】

-
-
-

【記憶に残す内容】

採点基準

10点：ほぼそのまま使える。過去の記憶も踏まえている。

8点：少し直せば使える。方向性は合っている。

6点：素材にはなるが、重要な前提が抜けている。

4点：一般論が多く、あなたの文脈に合っていない。

2点：目的や制約を理解していない。

0点：使えない。禁止事項に触れている。

レビュー後に貼る改善プロンプト

今回の出力は（点数）点です。

良かった点：

-

ズレた点:

-
-

次回から、以下を記憶として扱ってください。

【次回から守ること】

-
-

この記憶を踏まえて、同じ依頼をもう一度やり直してください。

レビューを記憶に戻すほど、AI部下は「あなたの仕事に合う」方向へ育ちます。

10. AI部下運用ログのサンプル

作業ごとに、短いログを残します。

2026-06-27

作業

「記憶ルール・プロンプト集」の修正版を作成。

目的

note第3回「記憶の使い方」と接続する。

登録者が、自分のAI部下用の記憶フォルダーを作れるようにする。

完了

- 第1弾・第2弾の型を再確認
- 特典3をワークブック型に再構成
- 記憶フォルダー構成を整理
- 起動、保存、レビュー、引き継ぎプロンプトを作成

未完了

- 表紙デザイン
- 図解追加
- アリスQC
- ライブラリ配置

次回

1. PDFで見たい目を確認する
2. 必要なら図解を追加する
3. アリスQCへ回す
4. ライブラリ第3弾として配置する

記憶に残すこと

- シリーズ特典は既存の完成形を読み込んでから作る
- 特典3は説明書ではなく、読者が手を動かすワークブックにする
- 記憶の価値は、フォルダー構成、保存ルール、プロンプト、運用ログで見せる

ログは長くしすぎない方が続きます。

次回のAIが続きを始められるだけの情報があれば十分です。

11. 7日間の記憶育成メニュー

Day 1: North Starを書く

やること:

- 6ヶ月後にどうなっていたいかを書く
- AI部下に何を減らしてほしいかを書く
- 迷った時の判断基準を3つ書く

ゴール:

AI部下が、目の前の作業だけでなく目的を見られる。

Day 2: Manifestを書く

やること:

- AIにやらせないことを書く
- 人間に戻す判断を書く
- 出力基準を書く

ゴール:

AI部下が、勝手に進めてはいけない境界線を理解する。

Day 3: Role Cardを書く

やること:

- AI部下の名前、役割、得意なことを書く
- 任せないことを書く
- 出力形式を書く

ゴール:

AI部下が、自分の担当範囲を説明できる。

Day 4: 決定事項を残す

やること:

- 最近決めたことを3つだけ decisions.md に書く
- なぜ決めたかも1行添える

ゴール:

AI部下が、過去の決定と矛盾しにくくなる。

Day 5: 好みを残す

やること:

- 文章、デザイン、報告、作業の進め方について好みを書く
- 避けたい表現も書く

ゴール:

AI部下が、毎回「好み」を聞き直さなくなる。

Day 6: 失敗を1つ残す

やること:

- 最近ズレた出力を1つ選ぶ
- 原因を書く
- 次回のルールに変換する

ゴール:

AI部下が、同じ失敗を避ける材料を持つ。

Day 7: 起動プロンプトを試す

やること:

- 作った記憶ファイルをAIに読ませる
- 何を理解したか復唱させる
- 小さな仕事を1つ頼む
- 10点満点でレビューする

ゴール:

AI部下が、前回の続きから動けるか確認する。

12. 最初の30分でやること

時間がない人は、ここだけやってください。

1. north-star.md を作る: 5分
2. manifest.md を作る: 7分
3. role-card.md を作る: 7分
4. decisions.md に最近の決定を3つ書く: 5分
5. start-session.md のプロンプトを貼って試す: 6分

完璧な記憶フォルダーは不要です。

最初に必要なのは、AI部下を1回起動して、1回仕事をさせて、1つ記憶を増やすことです。

13. この特典の次に読むべき話

この特典で作れるのは、AI部下の記憶の土台です。

ただし、本当に強くなるのはここからです。

- 記憶をどう持ち出すか
- AIごとに文脈を失わない方法
- スキルや外部ツールとどうつなぐか
- 複数AI部下の記憶をどう分けるか
- 人間の承認ポイントをどこに置くか

エージェントメモリーズで目指しているのは、ただAIに会話を覚えさせることではありません。



エージェントメモリーズの3つの軸

記憶を持ち出せる。

スキルや外部ツールとつながる。

自分専用のAIパートナーとして育てられる。

AIを毎回使い捨てるのではなく、関係性ごと育てていく。

その入口が、この記憶ルール・プロンプト集です。

まずは今日、north-star.md を1つ作ってみてください。

エージェントメモリーズでは、AIを毎回使い捨てず、自分専用のAIパートナーとして育てるための仕組みを作っています。

先行案内と追加特典は、メルマガ登録後に順番に届けます。

<https://agentmemories.jp/#join>

桐崎和也